

同志会会報

第5号

集団参加について

会長 玉津徳太郎



陽春三月は学校の卒業期である。わが同窓会も、はつらつたる新会員一、四二二名を迎えることになつた。同窓会十支部には、それぞれ何名かの新会員が参加することになろう。この機会に従来の実績を再検討して、同窓会の基本的な方針を新会員に伝えるとともに、新会員の参加による新しい意見をも汲み入れて、新時代に即応する生々とした仲間集団として更正しされて、諸君が活躍する。一九七〇年代後半の社会は、高度成長が終つて、安定成長を求める時代になつたといわれる。いうまでもなく、

高度成長の社会にあつては、物的生産の向上により、日常生活の物的手段は量的に拡大され、いわゆる豊かな社会であつた。ところが、諸君もすでに経験したように、相次いで起る公害問題、資源問題、エネルギー問題により世相は一変し、日常生活も不況とインフレに悩まされることになった。そこで誰もが好むと否とにかかわらず、この混迷を開拓して生活の安定、新しい社会秩序を求めざるを得なくなつた。国内的にも国際的にも、一九七〇年代後半は新秩序再建への模索の時代といわれる所以はここにある。

世界的新秩序の方向は、先進国も開発途上国も自国の現実と独立性を再確認するとともに、相互関係を見い出し、協同の力で緊張を緩和して共栄の道を再建すること

われわれが身近に経験する市民社会をみると、現代の情勢は生産力の向上と通信・交通技術の発達によって、一方において世界的交流が拡大するとともに他方では人間の自由意志による多数の機能

集団が形成され、個人は自ら望む集団に自由に参加したり、脱退したりする選択範囲がひろまることになつた。しかし、人間が社会的存在である以上、いずれかの集団に参加して活動しなければ自己の安定を求めるために、集団成員としての誇りをもつて、理想達成の未来を信じて努力を惜しまないことである。

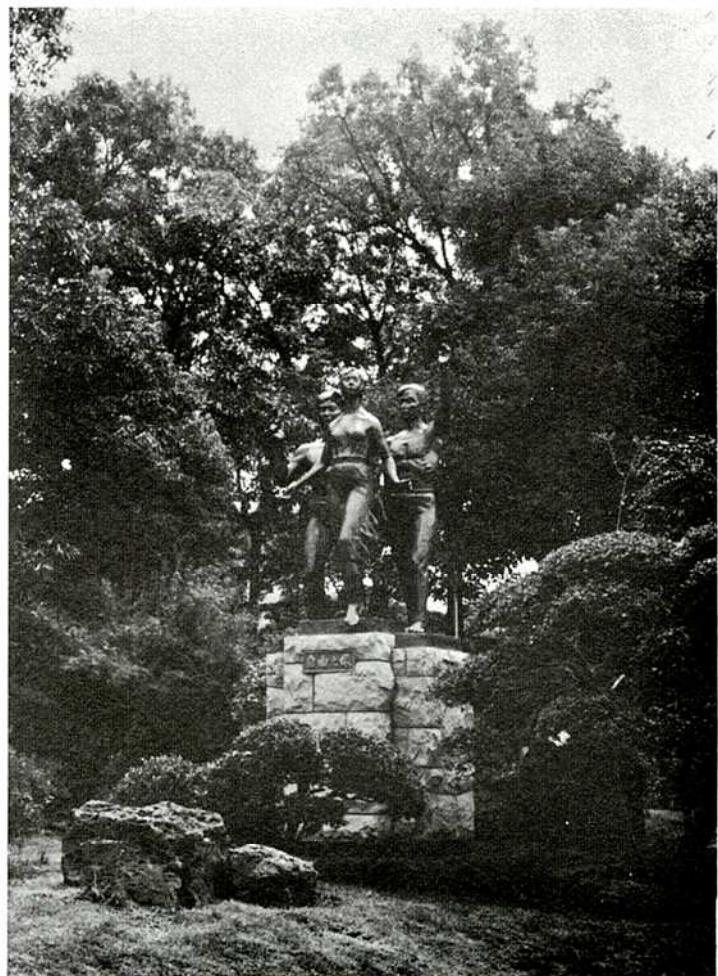
昭和51年2月27日
静岡県三島市文教町2
日大三島高校同窓会 発行

な集団が相互に連携を保ちながら展開されている。安定と危機も構造的に展開されるといわれるのまさに近代社会の機能性によるということができるよう。そこで安定成長期に対応する、生活中心の社会や集団に参加する仕方が問われることになる。

集団参加の要求は、民主的人間の集団生活における生きがいを求める要求ともいうことができる。

すなわち、集団成員として自分の力を責任をもつて、その決定に参加し、自分のものとして、一步の実現に自己のエネルギーを注ぐということである。換言すれば、集団生活の安定と水準を高めるために、集団成員としての誇りをもつて、理想達成の未来を信じて努力を惜しまないことである。

社会情勢が、停滞ぎみになつたり、混迷して危機的様相を呈すれば呈するほど、職業集団にしても、友愛集団にしても、集団目標の方に向に成員が積極的に参加し、協同の力で難局を開拓することが必要となる。安定を求める時代に處する諸君が、それぞれ参加の意義を吟味し、生きがいある活やくをされるよう期待して掲筆する。



母校の指標「自由の像」

新らしい時代への

対応を



幹事長 高田菊平

この数年というものは、大変な激動の時代が続いている。そして今までの高度成長の時代から、あきらかに低成長への時代へと変化せざるを得ない情勢となつた。

一時代を画した高度成長時には、それはそれなりの物の考え方があり、それはそれでその時代に対応したものであつた。誰しも今、我が直面しているこの低成長の時代を、かつて予想したものはないなかつたであろう。それほどまでに急激な経済成長の降下をせざるを得ないとなれば、我々が今までつちかってきた、あの時代における物の考え方、もはや通用しないと思わねばならない。そこで原点にもどる必要があると思う。

今年のいろいろな人が言つていれる年頭諸感の中には、相通ずるものがあるとすれば、そんなところではなかろうか。

同窓会の活動においても同じことがいえそうだ。まだ年月は浅いが、一つの節をむかえているような気がする。この節をこえること

は、次への成長へのどうしても通らなければならないものであろう。その手段・方法・考え方はいったい何であろうか……。

皆さんにおしえてもらいたい。

昨年残念ながら充分な活動をしえないまま、に終つてしまつた。いくどか企画がなされながらも、それが実行までいかなくつぶれてしまうことが多かつた。

しかし、その中においてさえも基本的に、同窓会の発展への気持はつながれてきていると思つてゐる。昨年は私事をふりかえつてみても、非常に試練の年であつた。それを何んとかのりこえてくることができた。その試練の中にあるとき、同窓生の皆がそれぞれに試練にたたされ、苦しんでいることを想像すると、やらなければならぬこと、勇気つけられるのである。

(S 51・1・15)



支部だより

支部独自の活動

三島支部長	遠藤日出夫	小田原支部長	川口功一
沼津支部長	高木弘之	田方支部長	植田正年
富士支部長	西村雅幸	富士宮支部長	渡辺衛
御殿場支部長	真田正義	静岡支部長	長嶋興嗣
熱海支部長	谷口俊二	清水支部長	齊藤康行

富士支部

恒例の網引き

今年の支部総会は、四月四日に行なわれました。例年参加者が少ないことから、今年は誰もが気楽に参加できるということから、会員の好意により会場（大月食堂）を借りることができ盛況でした。

話し合いの中で富士支部活動を行なうには本部より出る活動費では少ないということから、一年間会費の徴収をした方が良いという事に決まりました。今会員各位に納入をお願いしています。

五月には昨年度に続き、網引き大会を開きました。諸先生・他支部長・会員・会員の家族・友人等大勢の参加者がありました。

十二月には一・二期卒を主体に忘年会を開きました。

こうした活動の中に会員相互の親睦と融和が得られるものと確信しております。

これからも富士支部発展のため会員皆様方の御協力をお願いします。

今の現状では、ただ同窓会会報のためのものであり、もつと本部とのつながりを密にして、会員一同が一体になつてやらなければとの目標を定めて、つくりあげねばなりません。もつとしっかりと発展の参考になるのではないかと思います。よろしくお願ひいたします。

支部としてもこれから構想をじっくり考え、多くの会員とともによりよい活動を続けてゆきたい。それに際して、同窓会本部にお願いしたいことは、冬支部担当の諸先生方にも、御意見などをいただきたいと思います。なぜなら、支部発展の参考になるのではないかと思います。よろしくお願ひいたします。

支部としては、一応の計画案立て、臨んではいるが、まとめることがますますむづかしくなつてゐる現状である。それは支部役員の情熱もうすれ、とかくマンネリ化の傾向が強くなり、集まる機会が少なくなつたということ。これは同窓会という母体と、支部組織のつながりが多少なりとも遠のいた感じがする。他支部でもやはり悩みの一つではなかろうか。

本部との一体化を

静岡支部



自然發生的
同窓会を

に思い出が甦り、高校時代に頑張った事の記憶が今日の自分に語りかけ、闘志をわかせてくるものです。

感しながら、フレッシュ会員の増える三月を心待ちにして居ります。熱海・伊東地区と、広地域のわりには気忙しい場所柄か、一同

一步前進

名の会員が出席し、盛大に行なわれました。

三

田方支部の五十年度の事業は、
具体的にはありませんでした。
設立して以来、過去四回の総会を
開催してきましたが、次第に出席
人数が減少し、今後の方向に問題
点が残されております。
地域が広い事が問題点の一つであ
ることも事実です。
今後の田方支部の活動として考え
られる事は、町別の同窓会であり
ます。

私がここ数年、沼津支部の支部長をあずかっているものの、思うようには進まず、正直なところ困惑さえもしている次第であります。沼津支部に所属する会員は二〇〇〇名を越え、大所帯となつており、その組織化が難行し、日々をただ送つてしまうかのようであります。

昨年は総会にぶどう狩りと、行事に併せ、名簿の修正、連絡等と慌しい中、会員相互の親睦も深まり、ナンバープレート写真を見ながらの反省会のコーヒーのおいしさは、又格別といったところです。

会員数の増加に伴ない、年齢層も広くなり、地域社会人としての交流も深まるのではないかと期待しています。

我々三島支部に入会されるわけですが、母校愛を常に忘れずに活躍される事を心からお祈りいたします。

昨今は、念願の「電気科卒業生名簿」も作成し、今回の同窓会を通して会員に配布いたしました。

しかもその会の設立は、ある程度自然発生的である事に重点を置いたいと思います。

当分は現状の支部を維持する事を考えていいたいと思います。その方法として本部の活動を中心^くに置き、支部でこれに協力していく方向で活動していきたいと思います。

しかし、母校にとて沿津地区は三島地区同様、地元であると考えておりますから、何んとしても近い将来に組織を完成させ、また名簿を揃えて会員相互の交流を盛んにし、個々人と母校の発展を図るよう決意しているものであり、どうか新入会員の皆様、積極的に御協力を願いたいいたします。

際立った行事はありませんでした
が、この殺伐とした情報化時代の
世層にあって、地に密着し、先輩
・後輩のつながりの良さをかみし
めつつ、人の和を深めようと思じ
て居ります。

す会員の連絡を密にする事が第一と二年計画で正確な支部名簿作成に着手しました。来年度は名簿作成と平行し、今年八月に実施した駿河湾納涼船に加へ、秋に親睦会を開催し、会員相互の連帯を深めたいと考えております。

沼津は地元!!

熱海支部 梅便り

そして“熱海ファミリー”を訪ね、
「潮の香」「梅の香」とともに、
熱海支部の「香り」を満喫なさい
ますように……。

め一步一步の歩みに全力をそいでいくつもりです。

第十六期生のみなさん!!

御卒

業おめでとうございます。
毎年、この時期に後輩諸君に挨拶
できる私は幸せ者であります。
というのも、昨今ではいつも思
い出されるのが、高校時代の先生方

寒の入りというのに陽気に恵まれ、日本一の早咲きを誇る、熱海梅園の梅も既に三分咲きで、十五日からの梅祭りには『冬至梅』がちようど見頃となります。

新会員の皆様方の今後の御活躍を期待するとともに、我等が愛する母校“日本大学三島高校”のますますの発展と、諸先生方々の御健康とを、おいのり申しあげます。

第五回 電氣同窓会 行なわる

A black and white photograph of a large group of people, predominantly young adults, posed in several rows. They are dressed in a mix of formal attire like suits and ties, and more casual clothing. The group is arranged in a tiered, slightly overlapping fashion, filling the frame from floor to ceiling.

第五回 電気同窓会 行なわる



新入同窓会員を迎えて

新入会員挨拶
十六期代表 竹内敏昭

思い出深い三年間の高校生活も無事に終わり、そして、私達は今

行なわれているといつも耳にいた

味からも、日本全国、もしかして海外までも広がっている本校卒業生が、同窓会というしつかりとした媒体を通じて、年齢的隔たりを越えて、縦にも横にもつながっているという事を考えてみますと、

これから、大学に進学したり、社会人となつて飛び立つていく私達にとつて、こんなに心強いことはありません。

第十六期生、卒業おめでとう!!

同窓会入会を心より歓迎いたします。

私達卒業生は毎年のこの時期を楽しみにし、又心強く思うのです。

それは、多くの同胞を得たからであります。社会生活は仲間との生活であり、仲間づくりは社会生活の基礎であります。第十六期生一四二名を迎えた事は同窓会の基盤にもう一本、太く大きい筋金が入つたことであり、これに優るものはありません。

世の中はまだまだ流動的であります。

それは、多くの同胞を得たからであります。社会生活は仲間との生活であり、仲間づくりは社会生活の基礎であります。第十六期生一四二名を迎えた事は同窓会の基盤にもう一本、太く大きい筋金が入つたことであり、これに優るものはありません。

世の中はまだまだ流動的であります。

|| 欽迎の二とば ||

第十六期生、卒業おめでとう!!

同窓会入会を心より歓迎いたします。

私達卒業生は毎年のこの時期を楽しみにし、又心強く思うのです。

それは、多くの同胞を得たからであります。社会生活は仲間との生活であり、仲間づくりは社会生活の基礎であります。第十六期生一四二名を迎えた事は同窓会の基盤にもう一本、太く大きい筋金が入つたことであり、これに優るものはありません。

世の中はまだまだ流動的であります。

「ペルーのリマ市で活躍中」

工業二期 深沢宗昭氏

昨年の春、工業科二期生の深沢宗昭君

(二八才)は妻と子三人で日本を飛び立つた。羽田での別れはつらかったが、一生懸命頑張つてこいと再会を夢見て今、心中に深く残つてゐる。「日本料理は

世界に通じよう」と信じ友はペルーへ行く事を決心しその下準備も整つた。

去年の三月、「レストラン『フジ』」と名づいて、ペルーのリマ市に行つたのです。

リマ市では、人件費もかからず、肉、魚

を始め豊富な材料のもと、存分にうでを

ふるうことができる喜んでおります。

数ヶ月にて仕事も順調に進み、この正月も母と妹を呼びよせ、異国の味を楽し

せてやつたという次第です。彼も成功、

世の中はまだまだ流動的であります。

「邦楽専攻の道」

十二期 鈴木信男氏

十二期卒業の鈴木信男氏は、小学校時代より、NHK「私の秘密」

に三味線の演奏をもつて出場などし、幼年頃からその持てる才能を

充分に發揮されてきました。

不成功はともかくどこまで自分がやれるかためしてみたい、と言つておりました。

同窓生の皆様も、応援してやつて下さい。またペルーに行つてみたい、また行つたら、よつてみたい、といった行つたら、よつてみたいという方は大変歓迎される事うけあいですので、行つたら、ぜひ、よつてやって下さい。

母校を卒業の後、国立一期校である東京芸術大学邦楽専攻に進まれ、三味線、鼓、踊り「日本舞踊」など邦楽関係の古典芸能に精進されている。

彼は、高校時代より貼り絵が趣味であり、小咄も得意で、恩師が語るには、達筆であり、文章力もすばらしいとの事で、多方面に趣味をもち、興味をもつてぶつかつてゐるようである。

昨年の五月には、高校の生徒会執行部の招待に応じられ、集会において、三味線の演奏を聞かせて、後輩達にその道の味を示しました。

このような分野にも、同窓生が活躍して、力をひろく示しつつあるということは喜ばしいことであります。

ところで、本校の同窓会も今年で十六年目を迎えたとか。十六年といえば、まだまだ若いという感じがしないこともあります。しかし、広範囲で活躍している卒業生のために、地域別に組織的に設けられた支部も十を数え、支部別また合同で行なう事業をはじめ、会報の発行など、充実した活動が

また、自分ひとりだけで生きていいくことがほとんど不可能な複雑化した現代において、人間的な互いのつながりや、信頼ほど大切な

私は十六期生も、自由と規律の精神をいつまでも忘れることなく同窓会のために、また日本大学三島高校の限りない発展のために、微力ではありますが、互いに手を携えてがんばつていただきたいと考えております。

同窓会のために、また日本大学三島高校の限りない発展のために、微力ではありますが、互いに手を携えてがんばつていただきたいと考えております。

今後ともよろしくお願ひいたします。



【講演会】

江木武彦氏を招き

「民主社会と対話」と題して

第十五期生の同窓会入会式当日
「民主社会と対話」と題して言論
科学研究所所長、江木武彦氏を招
いて入会歓迎の講演会を催した。
江木先生の講演はその道の人だけ
あってすばらしく、新入会員一同
一時間半の講演に聞き入り社会人
としての基本的要素の一つを修得
された様である。
それでは以下にその要旨を箇条的
に紹介し参考に供するものであります。

▼リーダーシップとはどれだけ多くの人の協力を引き出す事が出来るかという事。

▼協力してもらうために最大の法則は仲の良い人には協力し嫌いな人には協力出来ないという事。

▼仲が良い事は良い人間関係であり協力が得られる。

▼良い人間関係を創る具体的な方法は「話す」という事。

▼「話す」という事は相手が聴いている事が絶対的条件である。

▼「話す」事は人間関係の基本的能力である。

▼美しい言葉とは美しい心を持つ事であり意志悪な人の言葉はその様にできる。

中学部会発足!!

かねてよりの懸案であつた職域

部会の先陣をきつて中学部会が五十年十月十七日に発足した。

御承知の通り現在の組織は卒業年
度、クラスを中心とする横の関

係と県内外を十支部に区分した地
域的結合による縦の関係の二本立

となつてゐる。職域部会の発足の動機は現組織に加えて組織強化を

目指す一方同じ職業を持つ同窓生
がそれぞれの立場で情報交換を行
ない相互の発展を期そうとする物

であり、今後の社会情勢を考えると
一層この組織に大きな意義を見い
だす事ができるものと思われる。

そこでこの中学部会は二回の準備
会を経て発足した訳ですが今回は

県東部地区の中学校に在職する同
窓の方々に御参集戴き二〇余名の
参加者を数えた。この会合に会長
であられる玉津先生、相談役橋先
生も出席され青年教師達との語ら
いの中で教育論議に花を咲せ大変
参考になり出席された方々は一同
にして一層の情熱を燃やされた。ま
た参加者の中には直接関係する者
として母校の大学進学状況等に關
する質問もなされ教育現場での進
路指導に役立つたものと思われる。
ともあれこうして発足した中学部
会は今後早い時期に地域を拡大す
ると共に小学校、高校に在職する
方々にまで領域を拡げる方針です。

日大には桜師会という全国的組織
が有り日大を卒業して教職に在る
方々の集りで、年々隆盛してい

昭和五十年度 事業

報告

一、総会

総会

昭和五十年四月二九日(水)

午後三時

日大三島八号館食堂

議題

1幹事長・会長挨拶

2四十九年度事業・予算報告

3五十年度事業・予算計画

4その他

○土木科同窓会

○電気科同窓会

○三島照明館

○母校食堂

○その他

○三期生同窓会

○各工業科

○各クラスの同窓会

○三島同窓会

○各支部

○十一月二十二日(土)

一泊

○長岡あやめ荘

○その他

二、幹事会

第一回

六月二十三日(月)

於じゅん

各支部報告

○仲間意識・事業予算の件

第三回

六月二十一日(金)

於らん

○職域部会(仮称)の件

第四回

六月二十一日(金)

於じゅん

○母校食堂

第五回

六月二十一日(金)

於らん

○その他

第六回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第七回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第八回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第九回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第十回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第十一回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第十二回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第十三回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第十四回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第五回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第十六回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第十七回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第十八回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第十九回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

第二十回

六月二十一日(金)

於らん

○母校食堂

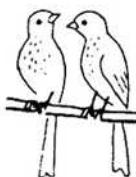
本年度の同窓会を顧みて、事業、
決算でも示すように、躍進的時代
から、探究的時代に入つてきてい
る点であろう。

六月の幹事会にても、同窓会の仲
間意識の問題が話し合われ、これ
を高揚していこうということにな
り、そのひとつ事業として、
同窓生のなかでの職域部会(仮称)
を創設していくこうということにな
り、その中で身近かな学校関係、
即ち母校出身で教員として活躍し
ている人達の会が開かれました。
今後はこれを契機にしたいもので
ある。

又各支部でもいろいろ疑問があり、
これらを今後の課題としなければ
ならない。

母校だより

研究授業 スポーツテスト 全日大体育大会(1年)	十 月	始業式 入学式	四 月
統一テスト 修学旅行(2年) 球技大会(1年)	十一 月	遠研究授業室 交通安全教室 視聴覚教室(1年)	五 月
終了式 保護者懇談会(3年) 冬休み	十二 月	保護者懇談会	六 月
冬休み 始業式 保護者懇談会(1・2年)	一 月	終了式 交通安全教室 夏休み	七 月
卒業生送別会	二 月	夏休み	八 月
高校入試	三 月	教職員研修会	
卒業式 修了式	三 月	始業式 桜陵祭	九 月



その第一期生は、僅か二十三人で、土木十四人との混成クラス。先生方は角田校長先生、工業科主任の福本先生、クラス担任に英語の福永先生、そして分れて行う専門教科では小生一人という陣容でした。創設期の常ともいうのでしょうか。校舎までがオンボロで、まさに無からの出発であったように思います。なかでも製図の時など床から舞い上る土ボコリに悩まされたことなどは忘れられません。しかしながら生徒諸君共々、その気概たるや大変充実していました。思うに真に目的意識があつた

の想い出すままを述べてみたいと思います。

技術教育を通しての人間創りを目標に、本校に工業科が出来たのが昭和三十六年、普通科開設後三年目でした。早いもので、もう十五年を終えようとしていますが、時の虚構に流されがちで、少なからぬ感慨を覚えております。

それはさておきこの十五年を三つに区切り、今回は最初の五年間に焦を当ててみると

技術教育を
通しての人間創り

建築科教諭

英語教諭 藤田紀弥

育を通してこそ、豊かな眞の人間創りが出来ると信じます。

再会を楽しみに

英語教諭 藤田紀弥

日の過ぎるのは早い。もう十五年もたつた。

・応援優勝したこと。合唱コンクールで優勝したこと。悪い生徒と教壇で向い合つて立往生したこと。談笑の内に授業したのか、授業の

からではないでしょうか。

紙面の都合で個々人の想い出を紹介出来ないのが残念ですが、現在、業界におけるリード振りは、幹事長であり、初の建築士となつ

の中で團樂をみつけたのか、夢の
よう、長い月日は去つて行つた。
想い出は、数行の文では、どうて
い書きつくせないものになつてい
る。

に、談笑し、応援して、再会を楽しみ合うではないか。想い出を書くよりも互いにその方が良いのではないか。

に、談笑し、応援して、再会を楽しみ合うではないか。想い出を書くよりも互いにその方が良いのではないか。

五月は遠足が行なわれ各科各学年に別れ春の一日を楽しく過ごしました。又一年生を対象に視聴覚教室が開かれシェイクスピアの作品より「威尼斯の商人」を鑑賞しました。七月には、夏休みを前に免許証取得者に対し交通安全教室を開き交通徳を守り安全運転を促がしました。八月には卓球部がインターハイで優勝。

九月には、年間行事最大の催しである桜陵祭が行なわれ、日頃の研究の成果を発表し好評を得ました。

九月には、年間行事最大の催しである桜陵祭が行なわれ、日頃の研究の成果を発表し好評を得ました。

九月には、年間行事最大の催しである桜陵祭が行なわれ、日頃の研究の成果を発表し好評を得ました。

卒業生の進路

進学

高度成長した現代社会において幅広い専門知識を持つ人間形成の需要が高まっているにもかかわらず、それに反比例した大学の門は年々狭くなっている。この様な現状にあって日本大学も合格基準が高まり、付属高校といえども毎年合格率は厳しくなつてきている。

こうした中につても本付属高校

の進学率は高く、昭和49年度も例年の如くに好成績をあげることができた。特に競争率の高い医、歯、理系各部への進学も順調に伸びているが、今後は例年より一層厳しくなると予想される。従つて本付属高校は入学目的達成の為の教師相互の研究を進め更に一貫性のある教育方針をもち現況に対処しよりよい結果を生み出したい。

クラブ活動

運動部の活動記録 （全国総体）

水泳	犬飼玲子	六位	200m
卓球	齊藤政則	優勝	
剣道	ダブルス	優勝	
前川幸夫	ダブルス	優勝	
庭球	スケート	三位	
体操	水泳	犬飼玲子	三位
国体	浅井陽一郎	三位	
	卓球	高杉昇	優秀賞
	スケート		

学術・文化部の活動記録 合唱 関東合唱コンクール

吹奏楽	県大会	銀賞
生物	鈴木梅太郎賞（昆虫）	優秀校

静岡県 優秀賞
「コネサンショウワオの研究」

放送 全国コンテスト

入賞 県放送コンクール

美術 全国高校生写真

入賞 イラスト・絵画

高写連 入選 コンクール学校協力賞

写真 県スピーチコンテスト 三位

将棋 全国大会 九位

〔随想〕

一杯のコーヒーから 八期卒業 西島逸夫

一杯のコーヒーから今日も一日が始まる。

私とコーヒーの出会いは「一杯のコーヒーから」というロマンチックなものではなく、ただおとなとの味に対するあこがれにすぎなかつたのだ。

しかし、あの苦さ、香りに魅せられたのは確かである。

いつ頃からこうなったかははつきりしないのだがコーヒーがないと私は一日も過ごせない。だからコーヒーは大変好きなのである。

私の常用するのは自分の今までのコーヒーの研究成果であり、現在一番満足しているブレンドで、いわゆるアメリカンタイプの軽いコーヒーである。

それを一日何杯も飲む。

私流のコーヒーの飲み方は、カッピングにそそがれたコーヒーをひとくち、なにも入れずにブラックで飲み、風味を楽しむ、次に砂糖を入れ、ふたくちめを飲む、そして残ったコーヒーに静かにクリームを浮かせてかきまぜないで、みくちめを飲み、よくまじつていないための複雑な味を楽しんで終わる。

（まず、ブラックで飲むのは酸味と苦味を引き分けるためであり、この時砂糖の量をきめる。

砂糖は苦味を中和させ、クリーム

ないお店が多すぎることは確かにあります。私の店では、他店とはそういう点では違うんだと自負しています。よく学校での勉強は社会では役に立たないといわれています。

私もそう思っています。

しかし、本学での「礼・節を重んじる校風」に学んだことが、私の経営、接客の面で大きくプラスしていることは確かなのです。

おたがいお店はお客様の身になり、お客様はお店の立場になり、相手に感謝し、思いやりの気持が大切ではないでしょうか。

それがおいしくコーヒーを飲む秘訣ではないでしょうか。

我々経営する者が尚一層の努力をし、この業界を社会的に向上させて、今までの社会通念（水商売としての位置づけ）を打ち破り、私自身もどこへ出てもはずかしくない人間になりたい。

この業界の覇者になりたいと思っています。

それがわたしの「生きがい」なのです。

我らが店の「生きがい」を守り続けることが大切で、誰にでも合うものよりも、ある程度範囲はせばめられても、その味を求めてやつてくるお客様をつくることが大切に思えるのです。

実際に接客の面でも同じことが

いえると思うのです。

たしかに最近の喫茶店、スナック

ランダ各国をおとずれ、専門的にコーヒーの勉強をし、現在に至り、おおくの方々においしいコーヒーを提供している「青年実業家」で

一筆者紹介

西島氏は、現在三島市の「源泉園のほとり」に、茶房「櫻」を經營。

日本大学商学部卒業後、イギリス、フランス、イタリア、スイス、オランダ各国をおとずれ、専門的にコーヒーの勉強をし、現在に至り、おおくの方々においしいコーヒーを提供している「青年実業家」で

日本大学三島高等学校 同窓会規約

第十三条

の他、必要とする役職を置き幹事会の互選により選出する。
幹事会に常任幹事会を設ける。常任幹事会は幹事会の役職
員ならびに常任幹事によつて構成され、必要により幹事会
にかえることができる。

幹事会は本運営上、必要と認めた場合に臨時に特別の機
関を設けることができる。

第十四条

第三節 支部会

本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る
支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部による
ものとする。

第一章 総則

第一条 本会は日本大学三島高等学校同窓会と称する。

第二条 本会の事務所は、これを日本大学三島高等学校内に置く。

第三条 本会会員は、日本大学三島高等学校の卒業生をもつて正会員

とし、現教職員および元教職員をもつて特別会員とする。

第四条 本会は、母校建学の精神にのつとり会員相互の親睦と融和を

図り、母校の発展興隆に寄与することをもつて目的とする。

第五条 本会は、前条目的達成のために左の事業を行なう。

一、会員相互の親睦と融和をはかるための各種行事

二、母校の発展興隆に関する各種行事への協力・参加

三、その他、目的達成のために必要な諸行事

二、母校の発展興隆に関する各種行事への協力・参加

三、その他、目的達成のために必要な諸行事

第二章 機関

第一条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

五、編集委員会

第六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第七条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第八条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第九条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第十一条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第十二条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第十三条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第十四条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第十五条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第十六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第十七条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第十八条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第十九条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第二十条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第二十一条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第二十二条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第二十三条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第二十四条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第二十五条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第二十六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第二十七条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第二十八条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第二十九条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第三十条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第三十一条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第三十二条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第三十三条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

第三十四条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。

二、総会 三、支部会 四、事務局

お知らせ

○昭和五十年三月付をもつて十六

期の卒業を数え、十六期生一四一

二名を加えて卒業生総数は一六、

七九四名となりその勢は強くも大

きなものとなつて参りました。ち

なみに卒業証書番号第一号は一期

卒業の相川圭司様であります。

○只今、各支部にて各方面的名簿

作成の為あなたの正確な住所を探

して居ます変更された方は各支

部又は事務局に御通知下さい。尚

名簿の種別は会員名簿、自営業者

編集委員会は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

○事務局では年一回発行のこの会

報原稿を年中募集しています。身

近な情報その他隨筆等どしお

寄せ下さい。二月の発行に際し活

用させて戴きます。

○卒業年度、クラス、クラブ等で

会を開く際御一報下さい。事務局

では許される範囲内にて協力致し

ます。又その際の名簿を一部戴け

ますれば幸いです。

事務局〒131三島市文教町二丁目

日本大学三島高校内 同窓会事務

局(係名 渡辺博夫、三田村伯)

○公私共に暮らしにくい世となつ

ている。同窓会員諸氏の各分野で

の活躍も思うにまかせぬ時もある

に違いない。だからこそ情報交換

の場がより望まれている。忙しい

中だからこそ同窓仲間が力になる

時もあるう。

後輩は次から次へ巣立つてゆく。

この輪を大きくするも生かすも、

この会の飛躍にかかっている。

幹事会には幹事長一名、副幹事長二名、庶務・会計二名、そ

第十二条 幹事会には幹事長一名、副幹事長二名、庶務・会計二名、そ

第十三条 改正施行 昭和三十六年三月十一日

第十四条

第十五条

第十六条

第十七条

第十八条

第十九条

第二十条

第二十一条

第二十二条

第二十三条

第二十四条

第二十五条

第二十六条

第二十七条

第二十八条

第二十九条

第三十条

第三十一条

第三十二条

第三十三条

第三十四条

第三十五条

第三十六条

第三十七条

第三十八条

第三十九条

第四十条

第四十一条

第四十二条

第四十三条

第四十四条

第四十五条

第四十六条

第四十七条

第四十八条

第四十九条

第五十条

第五十一条

第五十二条

第五十三条

第五十四条

第五十五条

第五十六条

第五十七条

第五十八条

第五十九条

第六十条

第六十一条

第六十二条

第六十三条

第六十四条

第六十五条

第六十六条

第六十七条

第六十八条

第六十九条

第七十条

第七十一条

第七十二条

第七十三条

第七十四条

第七十五条

第七十六条

第七十七条

第七十八条

第七十九条

第八十条

第八十一条

第八十二条

第八十三条

第八十四条

第八十五条

第八十六条

第八十七条

第八十八条

第八十九条

第九十条

第九十一条

第九十二条

第九十三条

第九十四条

第九十五条

第九十六条

第九十七条

第九十八条

第九十九条

第一百条

第一百一条

第一百十二条

第一百十三条

第一百十四条

第一百十五条

第一百十六条

第一百十七条

第一百十八条

第一百十九条

第一百二十条

第一百二十二条

第一百二十三条

第一百二十四条

第一百二十五条

第一百二十六条

第一百二十七条

第一百二十八条

第一百二十九条

第一百三十条

第一百三十二条

第一百三十三条

第一百三十四条

第一百三十五条

第一百三十六条

第一百三十七条

第一百三十八条

第一百三十九条

第一百四十条

第一百四十二条

第一百四十三条

第一百四十四条

第一百四十五条

第一百四十六条

第一百四十七条

第一百四十八条

第一百四十九条

第一百五十条

第一百五十二条

第一百五十三条

第一百五十四条

第一百五十五条

第一百五十六条

第一百五十七条

第一百五十八条

第一百五十九条

第一百六十条

第一百六十二条

第一百六十三条

第一百六十四条

第一百六十五条

第一百六十六条

第一百六十七条

第一百六十八条

第一百六十九条

第一百七十条

第一百七十二条

第一百七十三条

第一百七十四条

第一百七十五条

第一百七十六条

第一百七十七条

第一百七十八条

第一百七十九条

第一百八十条

第一百八十二条

第一百八十三条

第一百八十四条

第一百八十五条

第一百八十六条

第一百八十七条

第一百八十八条

第一百八十九条